

第3期第8回 帯広市産業振興会議 議事要旨

日時：平成26年9月22日（月）18:00～

場所：帯広市役所10階 第5B会議室

I. 開 会

事務局より苫小牧市中小企業振興審議会（傍聴者）の紹介があった。

II. 会長挨拶

III. 協 議

■ 専門部会における論点に対する対応方向について

（事務局）

資料に基づき事務局より説明

人材、情報、ネットワークについて各部会に共通して議題に上がっている。

（経営基盤部会）

- ・ これまでに掲げられているものについて、引き続き取り組む必要があるもの、もしくは更に浮き上がらせなければならないものを対応方向としている。

論点1について

① 創業・起業の促進を通して地域全体の活性化を促す

- ・ 既にビジョンに記載されているが、引き続き必要な取組み。新たな市場、サービスの創造を支援することで、新陳代謝が生まれ、既存企業にも刺激が与えられるため、より一層高いレベルの商品、サービスが生まれる、という観点からも引き続き必要と考えた。

② 関係機関・団体の各種施策の活動の情報共有と情報発信の統一化

- ・ 実態調査の結果から浮かび上がったもの。
- ・ 情報がどこにあるのか探しづらく、探す時間も無い。ここにいけば大体の情報は手に入るという場があれば、自発的に活動できるのではないか。
- ・ 情報の発信源を整理する動きが必要。ビジョンには触れられているが、より重要視する必要があると考えた。

③ 商店街や個店等の活性化を促進する。

- ・ 商店街、個店と記載されているが、大きく商業と捉えていいと考える。
「商店街」という面でのサービスと、個店一つ一つのサービスのそれぞれを向上させていかないと、他の部会でも議論されている交流人口が増えても継続していかない。
- ・ 個々の事業所が一步を踏み出すときに背中を押すような支援策があれば。

(人材部会)

論点2-1について

①U・Iターン者の確保促進

- ・U・Iターン者からの聴き取りによるニーズの調査。
- ・U・Iターン者を定着させるためのフォローアップの実施
- ・市のHPや首都圏等の十勝出身者のネットワークを活用した十勝の魅力発信

②地元企業の情報・魅力の発信

- ・高校のみならず小中学校に対し、副読本などを通じて帯広十勝の中小企業を発信
- ・長所短所に関わらず、企業の正確な情報を発信

論点2-2について

①研修などの教育制度の充実

- ・一企業では行えない研修を業界関係者が共同で行う研修制度の整備
- ・現場から1人でも欠けると営業が困難なところを、共同で実施することで人・物・金それぞれについてより良い方向が見出せるのではないかな。
- ・次世代リーダー育成のための継続的な研修の実施

②社内での人材育成制度改革

- ・人材育成の将来像を示す「人材育成工程表」作成と認識の共有化
- ・メンター制度への理解促進と導入の推進
- ・同じ部署の上司と部下という関わりを超えて、部署が異なる先輩、後輩社員が相談できるような体制の構築が重要と考える。

(ものづくり・販路拡大部会)

論点3-1について

- ・多くの企業は、新商品の開発など目の前の問題に多くのエネルギーを費やしており、サポートや企業連携、大学との連携が必要ではないかとの議論になった。

①支援制度の活用サポート

- ・様々な支援制度があるにもかかわらず、有効に活用されていない。
- ・理由としては制度の活用方法が分からないなどにより、エントリーしづらい環境なのではないかと考えられるため、ここをサポートするような仕組みが必要ではないかな。

②企業同士の連携促進

- ・それぞれ得意分野はあれ、オールマイティに活躍できる中小企業は少ない。
- ・役割分担して連携して事業に取り組むことが必要であり、そのための場作りとして、各企業のネットワークの見える化や、5S等の取組みを共同で行っていく等、手法を共通化することが必要になるのではないかな。

③大学・試験研究機関との連携促進

- ・帯広畜産大学などの能力の高い大学、研究機関があるため、こういった機関との連携が必要であり、そのためには連携しやすい仕組み作り、場作りが必要

論点3-2について

①「つながり」を活かした情報発信力の強化

- ・個々の企業が努力するだけでなく、十勝の魅力を丸ごと発信する考えが必要
- ・海外へ物を売ることが必要となるが、必ず言葉がネックになる。
- ・翻訳や通訳を担える人材を公的機関が登用し、色々な企業が活用できるようになれば、海外に対して積極的に情報発信が可能となる。

(集客・交流部会)

論点5について

①地域の魅力向上

- ・地域で開催されるイベントやコンベンション、また季節によって交流人口が増減することが問題となっている。
- ・これを解消するために、「ストーリー性のある観光コンテンツの形成」「十勝検定を実務者向けの資格制度化」、「道の駅の要望」など。
- ・道東道が釧路方面に延伸することから他地域との交流も必要ではないか。
- ・帯広市以外の十勝町村に対して、フードバレーとかちの言葉がどれだけ浸透しているのか、更に広めて十勝全体の魅力を向上させる必要がある。

②地域の魅力発信

- ・地域の景観、素材といった強みを発信できる仕組み作りが必要。
- ・外国人へのPR活動の充実
- ・業界人や専門家を含めたインフルエンサー向けの専門的なイベントの実施
- ・観光客を対象にしたアンケート調査の実施と調査結果の共有による情報発信強化
- ・十勝が観光地であることを住民に意識付けるために、住民向けイベントの実施

③満足度の提供

- ・地域の強みである食に付加価値をつけるために、農場やガーデンなど連携しストーリー性のある周遊ルートや、今までに無い形の体験型観光の実施、知的観光やサイクリングなどとの連携
- ・外国人観光客に分かりやすい案内サインの設置
- ・二次交通の充実と案内窓口の強化

(委員)

- ・経営基盤部会に参加した。
- ・循環型の経済を作っていく、お金は地域で回り再投資を進め、人口も減らさないという意識を地域で高める必要がある。
- ・そういった意味で創業が必要であり、ビジョンの実現という意味で大切。
- ・商店街、個店という中には、販売店だけでなく製造工場も含んでいいと思う。

(委員)

- ・人材部会に参加した。
- ・十勝の高校生1学年約3千人のうち、2千人が管外に流出してしまう。
- ・出て行った2千人に如何に戻ってきてもらうかが地域にとって必須な課題。

- ・地域全体で U・I ターンを支援しなければいけないが、活路はあると感じている。
- ・HP やその他情報発信手法は多くある。簡単なことではないが、確実に進めることが出来る。

(委員)

- ・それぞれの部会と併せて議論すると面白いものが出来そう。
- ・人材の I ターンと創業起業をつなげ、十勝以外において創業のコンペを開催するなど、面白い取組みが出来るのでは。
- ・ものづくりの支援制度の活用サポートも経営部会で議論されたものと重なる。
- ・当社でも中学生のインターンシップなど行っているが、教員向けにセミナーを行うという切り口もありかなと感じている。

(委員)

- ・色々な商売を始める方も長続きしないことが多い。これは企業のナンバー 2 になるような番頭さんのような人が居ないからではないか。例えば定年で退職された方などに、創業への手伝いをしていただくようなシステムがあれば、発想や勢いがあっても経験が無いような若者を活かせる。
- ・十勝総合振興局の取組みかと思うが、高校の教員が真鍋庭園において毎年研修を行っている。
- ・経営基盤部会で話されていた小中学生向けの教育について、児童、生徒、学生とそれぞれのレベルに合わせて情報発信をする必要がある。

(委員)

- ・教職員へのインターンシップは必要という議論も出ていた。振興局の教員向け研修も利用率が低く、その原因としては教員の忙しさ、カリキュラムの問題などある。これらをクリアするのは困難かと思うが、必要にも思われる。
- ・創業の部分と人材がマッチすれば、地元で新しい産業が起こりえる可能性はある。
- ・経営基盤の部会で情報発信の統一化が出ているが、様々な団体があるなかでどこかが中心にならなければいけないが、音頭を取る団体がなかなか無い。
- ・集客交流部会の議論のまとめは具体的であり、非常にいいと感じる。是非具体的なことをやりたい。

(委員)

- ・どの部会でも出てきたのが情報と人材であり、中でも人材に注視したい。
- ・一度出て行った人が戻ってくる仕組みを作る必要がある。
- ・早い段階で地元の中小企業の魅力を知ってもらうために、副読本の充実など、個々の企業の取組みや事業内容を伝えていくような場が必要。
- ・十勝の企業はインターンシップに前向きであり、地域に貢献したい気持ちがあるが、受け入れた学生は都市圏への就職を希望していることが多く、この両者の意識のギャップを埋めなければ地域の発展は無い。

- ・高校生に対し、有益な情報を如何に発信していくか。それを仕組み化することが必要に感じる。十勝の企業で働く人たちの姿を紹介した本「ワークワーク」を昨年度の製作に終わることなく、形を変えても継続して行うことが大切。

(委員)

- ・人材と創業起業の組み合わせに関し、人を十勝に呼ぶときに、業種で呼ぶのではなく、企業がそれぞれ持っている技術を魅力として打ち出すような発信方法が何か出来れば。
- ・どういう産業で雇用を増やしていくか。例えば再生可能エネルギーであれば、どの種類のエネルギーをどの程度増やしていくか、それにはどの程度の雇用が生まれるか、などを計画、目標として持つと雇用がより具体的になるのではないか。そういった目標を市で持てれば。
- ・先ほど意見の上がった番頭さんのようなキーマンと、どのように出会うか。出会いの場が必要。
- ・情報発信のキーは絶対に市だと思う。情報の集中する市がどういう立場になり、誰が情報発信を行うのか、検討が必要である。

(委員)

- ・十勝人の会との情報交流を活発に、という話しが出ていたが、これは人材に限らず集客交流面においても、東京からの情報発信などで活用できると感じる。
- ・旧ヨーカドー跡地や商工会議所、厚生病院など、市の中心部の動きが出ている。市の中心部の活性化につながると思うが、可能な限り情報発信いただき、グランドデザイン、プランを描いてほしい。

(委員)

- ・共同、集約という言葉が今後大事になる。
- ・最近の動きとして、十勝のチーズ工房が一緒になって一つの商品を作ろうという話しが出ている。その際に、工房ごとに設備投資するのではなく、共同で作る動きになっている。
- ・ものづくりだけでなく、人材育成などに関してもすべて同じ動きが必要になると思う。

■論点4に対する対応方向について

(委員)

- ・共同利用施設について、地域共通というよりも産業共通になるのではないか。地域の特徴ある産業で同じような工程があれば、施設等を共有化したほうがそれぞれが余分な投資をせずに魅力的な製品が作る環境、土壌が出来るのではないか。
- ・悩ましいのが再生可能エネルギーへの取組みだが、地域ごとで考えないといけないテーマと感じる。円安により一番先に影響があるのが中小企業。エネルギーコストが上がり固定費用が上がっても、製品に転化できないのが現状にある。

- ・エネルギーコストの高騰に対抗するためには、エネルギーを地域で作り出す考え方が求められている。インフラなど色々な障害はあると思うが、これをクリアするためにも、プラン、青写真を描く段階に来ていると思う。

(委員)

- ・十勝産の食品を使ってメニューを提供しようとしても、なかなか十勝産を確保できない。素材として買う場所が無い。
- ・高速道路について、部分的に開通ではなく、つながってこそ本当の利用が始まる。早期に各地につながってほしい。

(委員)

- ・一企業で設備投資は出来ないのであれば、一つの産業、同業者が利用できるような設備は必要と感じる。
- ・循環型エネルギーを今後進めていくしか道は無いように感じる。各町村でやっていることを十勝全体でやっていくように、プラットフォームを作って旗振りをしていかないと、5年10年先を考えると難しいのではないかと。

(委員)

- ・情報発信は考え方を間違えるとエネルギーの使い方が無駄になる。ネットが広がったことで、情報量は莫大にある。そのなかで量ばかりを追い求めるよりは、十勝の価値観や世界観を伝えていくような活動が必要ではないか。
- ・事実だけでなく、その背景には何があり、どのような思いがあるのかを伝えることに力を注ぐべきではないか。
- ・インナーブランディングとアウターブランディングの二つの視点が必要。外部のみならず地元に対して如何に情報を発信していくか。地元に住んでいる人が地元の商品を愛用していない、ネットで買い物をしているという状況から、地元の商店で物を買う、といった消費行動を起こすためには、地元に対する情報発信、インナーブランディングが必要と感じている。
- ・情報発信の集約化は方向性として正しいと思うが、どのように行うかについて議論を深める必要がある。

(委員)

- ・市に中小企業の相談窓口があるが、他の町村にはあまりないと思う。この窓口を充実、強化することも必要と感じる。
- ・仕入れは本当に大変。飲食店では悩ましいところ。誰かがどこかでそういったものを作っていければ。

(委員)

- ・再生可能エネルギーについて、家畜排せつ物にお金を払うという文化が農家に無いため、公的な支援でやらざるを得ないと感じる。地下水を汚染するという側面

からもなんらかの取組みが必要。

- ・本州や九州では、焼酎やコーヒーのカスなどもバイオマスとして利用されており、産廃物の利活用技術は進んでいる。こういった例からもまだ可能性はあると感じる。
- ・産廃物の肥料化、堆肥化は実際に話しが多いが、今後は家畜の飼料化がキーになるのではないか。製造業が多い地域であり、食品ロスが非常に出ていることから、飼料化が今後進めばと期待している。

(委員)

- ・集客・交流のなかでスイーツという言葉が出てこないのは何か背景があるのか。

(委員)

- ・外部に発信する上ではスイーツとしたほうがいいとも思うが、食と表現することですべてを包括した。

(委員)

- ・スイーツ、ガーデン、チーズ・ワインなど様々な観光パンフレットがあるが、やはりばらばらにPRしている。
- ・十勝が一つにまとめ、行政・団体の枠を取り除いた取組みが必要。

■ビジョン見直しのポイントについて

- ・今後の見直し箇所について、事務局より資料に基づき説明があった。

IV. その他

- ・委員より、同友会の取組みとして「外形標準課税適用拡大に反対」する署名活動の取組みと協力の呼びかけがなされた。

V. 閉会

【次回開催】 平成 26 年 10 月 6 日（月） 18 : 00 より 会場未定